

# 岡山県立瀬戸高等学校 生徒のための生成AI活用ガイドライン

## 1. はじめに：瀬戸高校が目指す「AI共創型教育」

岡山県立瀬戸高等学校は、文部科学省の「DXハイスクール事業」採択校として、教育のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進しています。私たちの目標は、生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、デジタル時代を生き抜くために必要な「デジタルリテラシー」を身に付けた次世代リーダーを育成することです。

その中核となるのが、本校が提唱する「AI共創型教育」です。これは、人間とAIが協力し、相互に影響を与え合いながら、新しい価値や知識を共に創造していく新時代の教育モデルです。私たちは、生成AIを単なる便利な道具ではなく、「AIを仲間として正しく理解し、共に成長する」存在と捉えています。

生成AI（ChatGPTなど）は、私たちの学習や探究活動を力強くサポートしてくれる可能性を秘めていますが、同時に、その使い方を誤ると、情報の信頼性、個人情報保護、著作権などの面で様々なリスクも伴います。

このガイドラインは、みなさんが生成AIの特性とリスクを正しく理解し、安全かつ効果的に活用することで、学びをより一層深めていくための基本的な考え方とルールを示すものです。このルールを守り、「AIを『仲間』に、共創の未来へ。」を共に目指しましょう。

## 2. 生成AI活用の基本姿勢

生成AIを学習に活用する上で、常に以下の5つの姿勢を心がけてください。

### （1）AIは「思考の伴走者」であり、「最終回答者」ではない

生成AIは「答えを出す機械」ではなく「思考の伴走者」です。アイデアの補助、思考のきっかけ、文章添削の一歩として活用しましょう。AIから得た情報を鵜呑みにせず、最終的な判断は必ず自分自身で行い、成果物には自らが責任を持つという姿勢が最も重要です。

### （2）成果物に対する最終的な責任は自分にある

レポート、論文、その他の提出物について、生成AIを利用したかどうかにかかわらず、その内容に対する著作者としての全責任は皆さん自身にあります。AIが生成した情報に誤りがあった場合、その責任をAIに転嫁することはできません。

### （3）常に批判的な視点を持つ（鵜呑みにしない）

生成AIの回答は、時に事実と異なる情報（ハルシネーション）や、学習データに起因する偏った考え（バイアス）を含む可能性があります。生成された情報はあくまで「参考の一つ」と捉え、それが本当に正しいか、偏っていないか、常に批判的に吟味する習慣をつけましょう。

#### (4) 情報の真偽を確かめる（ファクトチェック）

AI から得た情報が事実かどうかを、必ず複数の信頼できる情報源（教科書、公式サイト、公的統計データ、学術論文など）と照らし合わせて確認（ファクトチェック）してください。特に、探究活動やレポート作成で根拠として使用する情報は、その典拠を明確にする必要があります。

#### (5) 学びの機会を大切にする

レポート作成や問題解決の過程を AI に任せきりにすると、本来得られるはずの知識や、思考力・判断力・表現力を養う貴重な機会を失ってしまいます。特に、詩や俳句の創作、美術・音楽の表現、初見の感想を求められる場面など、感性や独創性を發揮することが目的の活動では、安易な使用を避けましょう。

### 3. 生成 AI 活用の具体的なルール

学校生活において生成 AI を利用する際は、以下のルールを必ず守ってください。

#### (1) 授業・課題での利用

ルール	詳細
担当教員の指示に必ず従う	これが最優先のルールです。 授業や課題ごとに、生成 AI の利用が許可されるか、禁止されるか、またどのような条件で利用できるかが異なります。必ず担当教員の指示を確認し、それに従ってください。
不正行為（剽窃）をしない	生成 AI が作成した文章、プログラム、作品などを、ほぼそのまま自分のものとして提出することは剽窃（ひょうせつ）という不正行為とみなされる場合があります。
利用した場合は事実を明記する	レポートなどで生成 AI を利用した場合、文献やウェブサイトを引用する時と同様に、その旨を明記する必要があります。 ①利用した AI サービスの名称 ②入力した主な指示（プロンプト） ③利用した日付などを記録し、指定された方法で記載してください。

#### (2) 個人情報・プライバシーの保護

ルール	詳細
個人情報を入力しない	自分や友人、家族など、他人の個人情報（氏名、住所、電話番号、メールアドレス、写真など）を絶対に入力しないでください。入力した情報が AI の学習データとして利用され、情報漏洩につながる危険性があります。

機密情報を入力しない	学校の内部情報や、部活動の未公開情報、探究活動で得た非公開のデータなども入力してはいけません。
------------	---

### (3) 著作権の保護

ルール	詳細
著作権を侵害しない	生成 AI が作った文章や画像が、既存の著作物と偶然似てしまうことがあります。特に、アニメのキャラクターネームや特定の作品名などを指示に含めて生成すると、著作権侵害のリスクが高まります。
著作物を無断で AI に読み込まさせない	インターネット上にある他人の文章、画像、音楽などを、著作権者の許可なくコピーして AI に学習させる・要約させるなどの行為は、それ自体が著作権侵害（複製権の侵害）となる可能性があります。
生成物の公開には特に注意する	授業の中で利用するだけであれば著作権法で認められる範囲も広いですが、生成したものを文化祭で展示したり、コンクールに応募したり、インターネット上で公開したりする場合は、他者の著作権を侵害していないか、より慎重な確認が必要です。

### (4) 情報モラルと安全な利用

ルール	詳細
利用規約を守る	各 AI サービスには利用規約があり、年齢制限が設けられている場合があります。規約を確認し、ルールを守って利用してください。
悪用しない	他人を誹謗中傷する、差別的な内容を助長する、偽情報（フェイクニュース）を作成するなど、違法または非倫理的な目的で生成 AI を使用してはいけません。

#### 4.瀬戸高校での生成AI活用場面の例

生成AIは強力な「仲間」となり得ます。ここでは、学習活動における「推奨される使い方」と「注意が必要な使い方」の例を示します。

##### ◎活用が推奨される例(AIを「仲間」にする使い方)

- ・探究活動の壁打ち相手として
  - 研究テーマに関するアイデアを広げる(ブレインストーミング)
  - 自分の考えに足りない視点がないか、多角的に検討する
  - プレゼンテーションの構成案について相談する
- ・情報収集・整理の効率化
  - 信頼できる長文の資料(公開されている論文など)を要約してもらい、概要を素早く掴む
  - 英語の文献を翻訳し、内容を理解する手助けとする
- ・思考力・表現力を高めるために
  - 自分で書いた英作文や小論文をより自然で説得力のある表現にするためのアドバイスを求める
- ・創造的な活動の補助として
  - プログラミングの授業で、基本的なコードの生成やエラーの修正方法についてヒントをもらう

##### ▲不適切な、または注意が必要な例

- ・レポートや感想文、小論文などを、ほぼ全面的にAIに作成させること。
- ・定期考查や小テストなど、学力の定着度を測る場面で使用すること。
- ・詩、俳句、美術作品の創作など、個人の感性や独創的な発想そのものが評価される課題で安易に利用すること。
- ・コンクールやコンテストに応募する作品をAIに生成させ、あたかも自分が創作したかのように提出すること。
- ・AIの出力をファクトチェックせずに、そのままレポートや発表の根拠として利用すること。

#### 5.困ったときは

生成AIの利用について判断に迷ったり、トラブルに巻き込まれたりした場合は、決して一人で悩まず、すぐに担当の先生や信頼できる大人に相談してください。

このガイドラインは、技術の進展や社会の変化に合わせて、今後も改訂される可能性があります。生成AIという新しい技術と正しく向き合い、それを自らの成長の糧としてすることで、皆さんの学びはより豊かで創造的なものになります。AIを良き「仲間」として賢く活用し、未来を切り拓く力を育んでいきましょう。